



くらしに役立つ
防災
Vol.5

福井県防災士会のご協力の下
防災に関するお役立ち情報を毎月お届けします

生き延びるための 災害への備え



今、日本列島は地震活動期に入っているとされています。

さらに昨今、豪雨、洪水、豪雪など、どこでどんな災害が起きても不思議ではありません。

私たちは、いかに災害に備えていくかを問われています。その時、私たちが生き延びる準備は、誰もしてくれません。私たち自身が生き延びるための備えをしなければならないのです。

過去の大震災



今から101年前の1923年9月1日に、関東大震災が起きました。この時の被害は、死者・行方不明者約105,000人。台風の影響もあり、なんと87%が焼死でした。阪神・淡路大震災では、死者約6,400人の83%が圧死。さらに東日本大震災の死者約18,000人の約90%が溺死でした。

2024年の元日に発生した能登半島地震では、考えられる被害が全て起きてしまいました。強い前震(震度5強)から4分後の本震(震度7)。家屋倒壊、液状化、津波、土砂崩れ、河道閉塞、上下水道崩壊、停電、通信遮断、火災、道路崩壊、交通網遮断、橋梁の段差など、私たちが思い付くような被害が全て発生した地震でした。

生き延びる準備



災害が起きた時に生き延びるための備えとして、まずは家屋の耐震化(昭和56年以前は旧耐震)を行いましょ。次に家具の転倒防止や簡易トイレ、水、非常食などを準備しましょう。さらに、ハザードマップでわが家の危険度の確認や避難所の確認を行いましょ。これまでも言われ続けていますが、みなさん本当に準備していますか？実際に災害が起きると本当に困るのは**トイレ**です。簡易トイレの準備は



しておいてください。自宅が断水で下水も流せない時に、洋式便器に被せるタイプの簡易トイレは本当に助かります。

また、お風呂やシャワーが使えない時には、ウェットタオルがあれば頭や身体を拭くことができます。歯磨きも、マウスウォッシュを使えば水でうがいをしないで済みます。冬場の避難所であれば、暖を取る方法も考えておきましょう。寝るための準備として、できれば寝袋があると随分と違いますね。

私自身、2024年1月の能登半島地震発災以来、毎月珠洲市に入り、何も無い現地で初めて何が必要かを実感しました。今では被災地のライフラインもかなり復旧していますが、何も無い時の被災地支援が、自分自身の備えに役立っています。

能登の復興は長期戦です。機会があれば、ぜひみなさんも一度被災地支援に入っていただければ幸いです。今できることを少しでも、お力添えをお願いします。

PROFILE

福井県防災士会 副理事長 角谷 桂一さん



福井県敦賀市在住。敦賀市防災士会会員、日本防災士会会員、まちの防災研究会員、地区自主防災会会長、福井県学校防災アドバイザーを務める。一般社団法人 日本アマチュア無線連盟 敦賀クラブ理事。

福井県防災士会と連携協定を締結しました

8月23日(金)、県民せいきょうは福井県防災士会と連携協定を締結しました。

協定では、福井県民の防災力を高め、災害に強い社会の実現に寄与することを目的に、「県民の防災知識や意識向上に向けた取り組み」、「防災商品の共同開発と普及に向けた取り組み」、「防災士の拡大に向けた取り組み」、「災害発生時における連携など」について連携していくことを約束しました。

近年多発する自然災害に備え、県民の防災知識の向上に貢献し、災害発生時に迅速な支援が行えるよう、協力して取り組んでいきます。



連携協定締結式 8月23日(金)
福井県防災士会 久保田理事長(前段左)
県民せいきょう 松宮理事長(前段右)